

平成 28 年度病院医学教育研究助成成果報告書

報告年月日：平成 29 年 4 月 10 日

研究・研修課題名	認定一般検査技師 資格取得試験
研究・研修組織名（所属）	検査部
研究・研修責任者名（所属）	定方智美（検査部）
共同研究・研修者名（所属）	

目的及び方法、成果の内容

①目的（800字程度）

検査部一般検査部門では尿、便、髄液、体腔液など様々な検査を行っている。多くの検体検査は自動化が進んでいるが、一般検査においては顕微鏡検査が大きな比重を占めており、個々のスキルアップが必要であると考えられる。特に尿中の異型細胞や赤血球形態の判別は重要であるが、個人の経験に依存する部分もあり、標準化が難しい。

現在島根県には日本臨床衛生検査技師会が認定する認定一般検査技師が数名しかおらず、他の認定資格と比較し極端に有資格者数が少ないというのが現状である。そこで今回認定一般検査技師の資格取得を目指し、基礎的な知識および正確な検査技術を習得することを目的とした。個人個人がレベルアップすることにより、当院の一般検査のレベルが向上し、患者・臨床医への正確で付加価値の高い検査結果の提供が可能になると考えられる。更に学生や研修医への検査技術の教育、また後進の指導においても認定資格の取得は有用である。また、県の技師会等を通じて島根県の一般検査技術を高めていけることが期待される。

②方法（800字程度）

平成 28 年 10 月 23 日（日）に東京で行われる試験に合格すれば資格取得となる。試験内容は分野ⅠからⅧ、画像問題にわかれている。分野Ⅰは尿検査（基礎知識、尿一般検査、尿試験紙検査、尿沈渣検査）、分野Ⅱは糞便検査（糞便検査、寄生虫検査）、分野Ⅲは髄液検査、分野Ⅳは体腔液（胸水、腹水、心嚢水）検査、分野Ⅴは関節液検査、分野Ⅵは精液検査、分野Ⅶはその他（鼻汁、胃液、胆汁、唾液など）、分野Ⅷは検査業務についての内容である。

概要

8：50～ 9：20 受付

9：20～ 9：30 オリエンテーション

9：30～11：30 筆記試験①（分野Ⅰ、Ⅱ）

11：30～12：30 昼食・休憩

12：30～14：00 筆記試験②（分野Ⅲ～Ⅷ）

14：00～14：20 休憩

14：20～16：00 筆記試験③（画像問題）

会場 一般財団法人 日本航空協会 航空会館

③成 果（データ等の図表を入れて2000字程度）

【結果】

今回の試験結果は合格であり、認定一般検査技師として認定された。

【試験について】

試験は午前の分野Ⅰ、Ⅱが120分で80問、午後の分野Ⅲ～Ⅷは90分で60問、画像問題が100分で60問であった。

内容については、尿検査（尿定性検査、尿沈渣検査）、便検査、寄生虫検査、髄液検査、体腔液（胸水、腹水、心嚢水）検査、関節液検査、精液検査、その他BALF検査やCAPD検査など多岐にわたって出題された。検査についての知識だけでなく、解剖学的知識や生理学的知識について問う問題も多く出題されていた。回答形式はすべてマークシート形式であったが、回答を2つ選択しなければならない問題が多かった。また画像問題では画像の成分そのものの答えを問う問題は少なく、その成分が分かっている上での問題が出題されており、各分野についてより深く理解していなければ正答することができない問題となっていた。

【まとめ】

認定一般検査技師の試験内容は非常に広く様々な分野からの問題が出題され、例年合格率は30%前後と日本臨床検査技師会が行う他の認定試験と比較しても難易度の高い試験となっている。ルーチン検査で行っていない寄生虫検査や精液検査からの出題割合も非常に高く、治療薬など臨床的な知識を問う問題も出題されていた。検査の基本的な手技や原理だけでなく、解剖学的知識や生理学的知識、また各種ガイドラインなどにも目を通し、理解を深めていくことが試験合格には重要である。昨年度の受験経験を活かし、出題傾向に沿って勉強ができたのが合格につながったと考えられる。

今回、一般検査に対する知識向上と検査技術のレベルアップを目標に認定試験を受験した。試験に向かって勉強したことによりたくさんの知識を得ることができた。得た知識を今後ルーチン業務や技師会の活動に役立てていきたい。

*一般社団法人 日本臨床衛生検査技師会 認定一般検査技師認定証 受領【2017年4月1日】
--